令和２年３月１日発行

かまぼこ

発　行　地域力推進蒲田西地区委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

第７５号

わがまちの顔

新蒲田二丁目／畑元太鼓店
代表　畑元（はたもと）　徹（とおる）　さん

テレビ朝日の人気番組「ちい散歩」（地井武男・平成二二年）、さらに「じゅん散歩」（高田純次・平成二九年）への登場で、ご存知の方が多いかもしれない、畑元徹さん。

昭和二八年（一九五三）、羽田の生まれ。一六歳のころから羽田囃子を習い、お祭り好きが高じて二三歳、浅草の岡田屋布施に入社。この老舗で和太鼓制作を修行し二八歳で独立、畑元太鼓店を開店して今日に至ります。

工房でお会いした畑元さんの名刺には、こう書かれています。

――「太鼓師。古典的な物から和太鼓全般の制作・販売、音色の調音・調整、修理、修復をいたします。」

太鼓師として「和太鼓全般」が扱える人は少ないそうです。

＊

その歴史は縄文時代にまで遡るといわれる和太鼓。用途によって種類も様々です。

① 宮太鼓（長胴太鼓）…胴は一本の木をくりぬいたものが利用される。皮は牛皮と馬皮、胴はケヤキが最高。出来上がるまで最低三年は必要だという。

② 締め太鼓…くりぬいた胴に、金属のリングで張った皮をボルトやひもで締めあげた太鼓。皮は牛皮、胴はケヤキが一般的。

③ 桶胴太鼓…桶のようにして胴を作ったもの。皮は牛馬、桶材にヒノキなど。紐締めのものが主流で低音、音響大。

④ 平太鼓…最大の特徴は胴の短さと音質。

⑤ ほかに、鼓や団扇（うちわ）太鼓など。

これら太鼓には、両面を打つタイプと片面を打つタイプがあります。前者は宮太鼓・桶胴太鼓など、音量大で低音がよく響くのが特徴であり、後者は団扇太鼓など、高音で響きは少ないのが特徴です。

畑元さんは言われます。

「私たちの仕事は、初めから終わりまで〝音を作る〟のが仕事です。太鼓は牛と馬、その皮の部位、張り具合によって音が微妙に違ってきます。職人の個性が出ます。叩くと音だけで、どんな職人が作ったかまで分かるんですよ……」

＊

周知のように、五〇年ほど前からプロの和太鼓集団が誕生し、今や創作和太鼓隆盛の時代を迎えています。さらにTaikoとして国際化の時代、その文化を支える畑元さんの一層のご活躍を祈念して工房を後にしました。

（取材　飯嶋・山口委員）

畑元さんと愛犬イチロー、宮太鼓

大倉陶園

「大倉踏切って何？」

ＪＲ東海道線（京浜東北線）の線路に沿って南（川崎方向）へ進んでいくと、自動車学校の角の踏切に「大倉踏切」と記されているのに気がつきます。なぜ大倉踏切という名なのでしょう？　この「大倉」って誰？　何のこと？

――それは一九六〇年（昭和三五）まで、現在の志茂田小学校、志茂田中学校や自動車教習所周辺の一三〇〇〇坪に及ぶ広大な敷地にあった大倉陶園に由来します。

大倉孫兵衛（左）、和親父子

「良きが上にも良きものを」

大倉陶園は、今から一〇〇年余り前の一九一九年（大正八）五月一五日、当時の東京市外六郷村と矢口村（現在の西六郷一丁目）に創業した陶磁器メーカーです。以降ここで作られた西洋陶磁器は瀟洒なデザインと高い品質で世界の注目を浴びるようになりました。

大倉陶園の創業者、大倉孫兵衛は一八四八年に江戸の絵草紙屋に生まれました。若い頃に横浜で森村市左衛門（森村財閥創始者）と知り合い、後に傘下の日本食器（のちの「ノリタケ」）と接点を持ったことで西洋陶磁器との係わり合いを深めていきました。すでに東洋陶器（ＴＯＴＯ）や日本碍子（株）を設立し、日本のセラミック産業に不動の地位を築いていた大倉はさらに「良きが上にも良きものを」をモットーに蒲田の地に大倉陶園を立ち上げました。蒲田に決めたのは、孫兵衛の息子でもあり、後継者であった大倉和親がアメリカ滞在中に黒澤貞次郎（黒澤タイプライターの創業者、現在の新蒲田一丁目で国産和文タイプライターを作る）と知り合い、土地を譲り受けたのがきっかけでした。

美術の工房

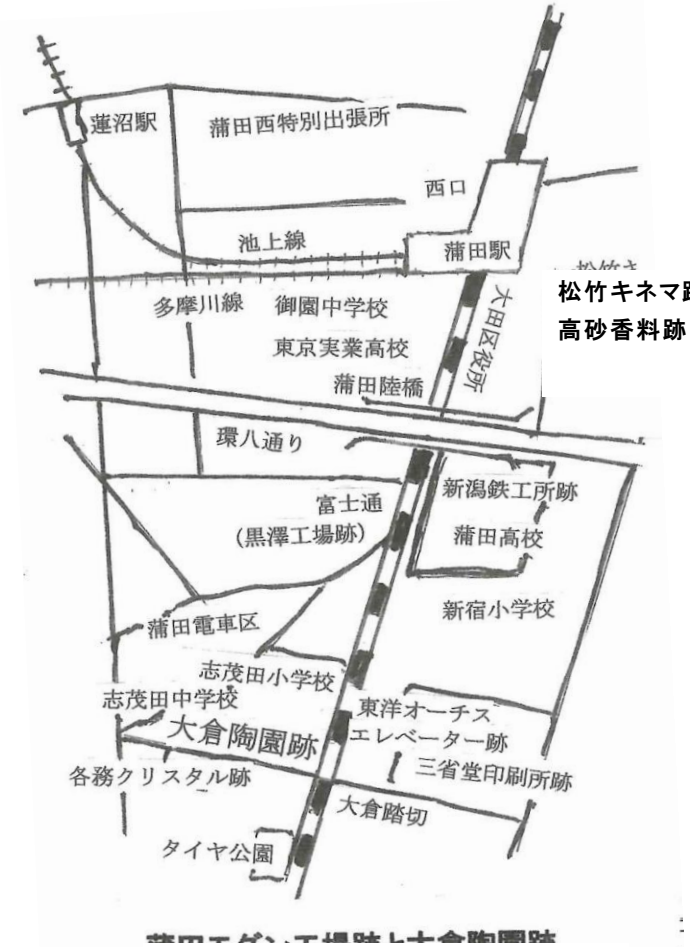
工場はチューリップやヒヤシンスなど、絶えることのない四季の花に囲まれた、おとぎ話に出てくるような二階建てで、みんなから「お花の工場」との愛称で親しまれました。孫兵衛がしたためた遺訓には設立にあたって次のように述べられています。

「～この地に工場と共に別荘のごとき展示場を設け、庭には花壇を作る。すなわち工場自体を『美術の工房』として誕生させる。～」

（大倉孫兵衛遺訓要約）

戦災で焼失

しかし、一九四五年（昭和二〇）四月一五日、城南地区を襲った大空襲で蒲田工場はほぼすべてを焼失してしまいました。従業員に被害がなかったのが不幸中の幸いでしたので、まもなく生産を開始できました。ところが戦後、国民生活は一変しました。ライフスタイルの変化とともに欧米化が進み、洋食器メーカーとして需要に供給が間に合わなくなったのです。昭和三〇年代に入ると、日本は高度成長期に入り大倉陶園への注文が



蒲田モダン工場跡と大倉陶園跡

増え、蒲田工場の設備では生産が間に合わなくなりました。トンネル窯という施設が必要になったことや、大田区が学校の敷地を探していたこともあり、四〇年にわたって親しまれていた蒲田工場を、横浜市戸塚区秋葉町に移すことになったのは一九六〇年（昭和三五）四月一日のことでした。

蒲田工場のショールームを模した現ディスプレイルーム

「蒲田モダン」の一翼をになって

誰が言い出したか定かではありませんが「蒲田モダン」という言葉があります。大正から昭和にかけて、蒲田のまちには当時の日本人ならば誰でもあこがれを抱いた西欧の香りが漂っていました。お洒落な町、「流行は蒲田から！」に誘われ、多くの人が蒲田を訪れ、流れる音楽は『蒲田行進曲』でした。モダンを絵に描いたようなこの時代の蒲田は何時しか「蒲田モダン」と呼ばれるようになりました。蒲田は「モノづくり」の技術を駆使し、西欧に追い付こう、追い越そうとする技術力で日本の近代化を実現しようとした志高い人達によって築かれていったのです。

一九一三年（大正二）、国産初の和文タイプライターを作り、社宅・菜園・公園・小学校・幼稚園・テニスコートまで、当時としては異例の充実した福利厚生施設を備えた黒澤商店。一九一九年（大正八）の大倉陶園、一九二〇年（大正九）の松竹キネマ蒲田撮影所、同年の高砂香料。一九二一年（大正一〇）の船舶用ディーゼルエンジンを初めて生産した新潟鉄工所。一九二二年（大正一一）には仕事の合間に女子社員に茶道・華道・習字などの情操教育を施し、教養溢れる女子社員が働くのでいつしか「蒲田女学校」と呼ばれた三省堂印刷所。一九三二年（昭和七）の東洋オーチスエレベーター。一九三四年（昭和九）に大倉和親のバックアップで蒲田に設立した各務クリスタルなど、その後の日本人の生活様式の近代化に大きく貢献していったのです。

創業一〇〇年を迎えて

一九一九年に創業した大倉陶園は、昨年創業一〇〇年を迎えました。皇室を始め迎賓館や一流ホテルなど各方面で使われ、国内の三つの美術館に展示されるなど高級陶磁器メーカーとしてますます発展しています。帝国ホテル内には直営店もあります。見ているだけでも目の保養になるので是非出かけてみてはいかがでしょう？

本稿執筆にあたり、㈱大倉陶園への取材に対して、お忙しいなか同社総務部長の伊藤泰弘氏、総務課長の黒澤学氏にお話をうかがいました。ありがとうございました。

（取材　多田委員）

初期の工場。1階左は事務所、右は型場、2階左は陳列室、右は絵付け工場。中央の出窓部分は図書室。（「大倉陶園 50 年譜」より）

ご存知ですか？

蒲田から映画館が消えた

♪春の蒲田
花咲く蒲田
キネマの都……

ＪＲ蒲田駅では今もそのメロディが流れ、「蒲田行進曲」でこのようにうたわれた蒲田です。

思えば一九二〇年（大正九）の松竹蒲田撮影所の誕生に伴い、蒲田では、映画館も大正から昭和にかけて四館がオープンし、すべて空襲で焼失しました。戦後になると、最盛期には二〇館ほどもあったという蒲田の映画館。蒲田西地区だけでも一〇館を数えたといわれます。（本紙48号参照）

蒲田宝塚　テアトル蒲田

このように〝キネマの都〟の名をほしいままにしたのですが、映画産業の斜陽化と共に昭和四〇年前後から廃館相次ぎ、ついには東京蒲田文化会館の二館――「テアトル蒲田」「宝塚蒲田」を残すのみとなったのでした。

その歴史をたずねますと、

① テアトル蒲田は昭和二五年、西口商店街一五〇軒が出資した蒲田西口連合映画㈱の直営で開館、主として東映系作品を上映。

② 蒲田宝塚は昭和三〇年、蒲田宝塚劇場として杉山権三氏（亀屋百貨店創業者）により、西口通りでテアトル蒲田に隣接して開館。東宝系作品を上映。

③ この二館は昭和三九年（東京オリンピックの年）、竣工直後の東京蒲田文化会館四階に移り、その直営として、チケット窓口を中央に、右がテアトル蒲田、左が蒲田宝塚として営業を続けてきました。春・夏・冬休みのアニメには子供たちが殺到し、「シン・ゴジラ」など話題作の数々は私たちの記憶に今も鮮やかです。

しかし、時代の趨勢には抗しきれず、ついに昨年八月二九日、蒲田宝塚が閉館（最終番組「ミュウツーの逆襲 EVOLUTION」）し、続いて九月五日には、テアトル蒲田が閉館（最終番組「アルキメデスの大戦」）したのです。さよなら興行もなくひっそりと……。

時あたかも本年は、二度目の東京オリンピックを迎え、松竹蒲田撮影所開設から一〇〇周年にも当たります。その直前に蒲田から映画館が消えるとは！　愛惜と共に何か奇縁を感じます。

＊

テアトル蒲田では、閉館の前日に、入口でチケットの〝もぎり〟をする、大森出身の女優＝片桐はいりさんの姿があったそうです。お掃除までされて帰られたとか。「もぎりよ今夜も有難う」（幻冬舎文庫）の名著もある片桐さんの来訪は、蒲田の映画館終焉の場には、あるいはふさわしかったのかもしれません。

お話を伺った㈱東京蒲田文化会館専務の杉山修一さん（杉山権三氏の孫）によると、この二館は今、昭和の映画館のレジェンドとして活用されたり、さまざまなＣＭ撮影に利用されたりしているそうです。（取材　山口・飯嶋委員）

お詫び

本紙73号二ページのタイトルに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

〔誤〕アミガサ事件と多摩川築堤運動

〔正〕多摩川に堤防を作る運動の歴史

「がまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局　蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七－一一－一
電話　３７３２・４７８

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,460 人
	女	30,092 人
	計	62,552 人
世帯		35,856 世帯

令和2年　2月1日現在